

令和4年度第55回兵庫県空手道選手権大会 申合せ事項
(第76回兵庫県民体育大会) (第30回全国・第31回近畿中学生空手道大会予選)
(日本スポーツマスターズ2022予選) (第77回国体・第50回全日本大会各一次予選)

<共通事項>

- ☆ ルールについて
 - (公財)全日本空手道連盟空手競技規定で実施する。但し、一部は本申合せにて実施する。
- ☆ 道着、及び胸・袖マーク・会派のラベル隠しについて
 - メーカーの指定はありません。白無地とする。
 - 上着胸ヒモの禁止。(ヒモは、外すか、裏側に見えないようにしっかり止めてください。)
 - 上着腰ヒモの着用必須。
 - 帯留めゴム・ヒモの使用禁止。
 - 胸・袖マーク等は、白布で4辺をしっかりと縫って隠す事。
 - ラベルについては、会派のラベルは禁止とし、白布・テープでしっかりと隠す事。
- ☆ 帯、背番号(ゼッケン)について
 - 中学生は、白帯を着用。会派の名前が刺繍された帯は使用禁止。
 - 中学生の赤・青については、県連で準備する紐を使用する。
 - 高校生・マスターズ・一般の選手は、自分の黒帯(赤・青帯)を着用。
 - ゼッケンは、縫う場所を指定する。指定する縫い目は、4辺隅4か所と、上下の辺に3点、左右の辺に2点の計14点か所とし、しっかりと縫い付ける事とする。(※別紙、『大会用ゼッケンの制作方法』参照。)
 - ※ ゼッケンの「縫い付け確認」を、招集場で招集時に行う。縫い方が、正しくない場合は、縫い足す等で本人又は保護者が行えるが、入場までに対応できない場合は失格となる。
 - ※ 上記の確認後、一旦競技会場に入場を許可された選手のゼッケンが、競技中に外れる等の場合でも、ペナルティを一切課さない。
- ☆ 組手競技は、全ての競技で3位決定戦を行う。
- ☆ 組手競技に関して、2022年新ルールは使用しない。旧ルールでの取決めとする。

1. 中学生

- ☆ 形競技
 - 予選ラウンドは、フラッグ制(トーナメント方式)とする。決勝ラウンドは、得点制とする。
- ☆ 組手競技
 - 安全具については、下記<安全具について>で指定された安全具を必ず着用する事。
 - 競技時間 1分30秒フルタイム。
 - 勝敗 6ポイント差で勝ちとします。
- ☆ 団体形・組手競技
 - 競技は上記形・組手申合せ事項により行う。
 - 組手競技は、勝敗が決した時点で終了する。
 - 競技は、学校対抗とし、複数学校からなる学校混成チームは認めない。
 - チームは、同一学校であれば、複数評議員の選手による編成を認める。
 - 同一学校からの複数チームの出場を認める。但し、全国中学生空手道選手権大会への出場は、1校1チームの規程により、上位1チームのみの参加を認める。
 - 同一又は複数の評議員からの、同一学校からの複数チームの出場を認める。
 - 1チーム3名とする。但し、補欠2名までを認め、登録は5名まで可とする。

2. マスターズ

☆ 形競技(赤青戦)

- 予選ラウンドは、フラッグ制(トーナメント方式)とする。但し、人数により得点制で行う事がある。決勝ラウンドは、得点制とする。

☆ 組手競技

- 安全具については、下記<安全具について>で指定された安全具を必ず着用する事。
- 競技時間 2分間フルタイム。
- 勝敗 6ポイント差で勝ちとします。

3. 高校生(少年)

☆ 形競技(赤青戦)

- 予選ラウンドは、フラッグ制(トーナメント方式)とする。決勝ラウンドは、得点制とする。

☆ 組手競技

- 安全具については、下記<安全具について>で指定された安全具を必ず着用する事。
- 競技時間 1分30秒フルタイム。
- 勝敗 6ポイント差で勝ちとします。

4. 一般/成年(※高校生の年齢の者は一般/成年には参加できない。)

☆ 形競技(赤青戦)

- 予選ラウンドは、フラッグ制(トーナメント方式)とする。但し、人数により得点制で行う事がある。決勝ラウンドは、得点制とする。
- 一般/成年は、決勝のみ1人ずつ演武する。

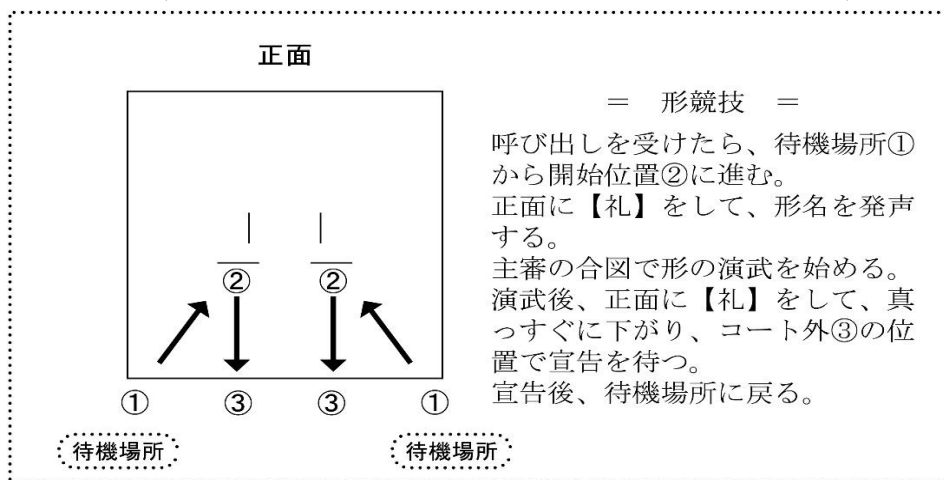
☆ 組手競技

- 男子で、計量時における重量不適合者は出場できない。
計量:午前11時に、武道館1階正面玄関前集合。
※時間厳守。遅れたものは、計量できない。
(軽量級/65kgに満たない体重・中量級/65kgから75kgまで・重量級/75kgを超える体重)
- 安全具については、下記<安全具について>で指定された安全具を必ず着用する事。
- 競技時間 2分間フルタイム。
- 勝敗 8ポイント差で勝ちとします。

5. その他

☆ 形競技

- 競技開始は主審が電子ホイッスルで合図する。点数表示の指示は、主審が着席したまま行う。



☆ 組手競技

- 15セコンドルール・10カウントルールは適用する。
- <安全具について>の表に記載の公認外の安全具の使用は認めない。

☆ 注意

- 組手競技で主・副審をする場合、自分の関係道場の選手が出場したときは、挙手してコート長に申し出て、主・副審を辞退してください。

<安全具について>

種目 分類	帯	メンホー	拳サポーター (白は、使用禁止)	シンガード及び インステップガード	ボディー プロテクター
小学生	白帯 ・会派名刺繍入り は使用禁止 ・名前のみ可	全空連 公認	赤青リバーシブル 及び 赤青グローブ式	全空連・高体連 公認(白色)	全空連公認
中学生					全空連・高体連 公認
高校生	自身の黒帯	〈注〉 フェース シールド (口元用) を装着。	赤青グローブ式	全空連・WKF 公認 (赤青色)	高体連公認
一般					全空連・高体連 公認
マスターズ					全空連・高体連 公認

- ※ メンホーの下に、フェースシールド(口元用)〈各自準備〉を装着すること。
- ※ 一般・マスターズでは、シンガード・インステップガードを、全空連・WKF公認赤青色とする。
- ※ 男子は、セーフティカップを使用する事。(※但し、小学1・2年生は、親の同意で不着用可とする。)
- ※ 但し、上位大会(近畿大会・全国大会等)に於いては、その大会要項・規定を順守すること。
- ※ 上記の安全具を準備していない選手は、競技に参加できない。
- ※ ボディープロテクターは、内側に着用する事。

令和4年度第55回兵庫県空手道選手権大会 形競技申合せ事項
(第76回兵庫県民体育大会) (第30回全国・第31回近畿中学生空手道大会予選)
(日本スポーツマスターズ2022予選) (第77回国体・第50回全日本大会各一次予選)

1. ラウンドと、演武方法について

☆ ラウンド

○ 競技形は、全競技、予選ラウンド・決勝ラウンド方式とする。

☆ 演武方法 ※ 団体戦については、「名」を「団体」と読み換える。

○ トーナメント式のラウンドでは、背番号の小さい者から順に2名同時に、演武する。

○ 中学生は、各自が白帯(会派・道場名が入った帯は使用禁止。)を、着用する。

○ 中学生の、赤・青の紐(紐は、兵空連で準備。)を使用する。赤・青帯の使用は不可。

○ 高校生以上は、各自の赤・青帯を着用する。

<中学生・高校生>

※ 予選ラウンドは、フラッグ制(トーナメント方式)とし、決勝ラウンドは、得点制とする。

○ 各ラウンドで演武できる形は、以下とする。

① 予選ラウンド 1・2回戦 全空連第一指定形(同じ形を繰返しても良い。)

② 予選ラウンド 3・4回戦 全空連第二指定形(同じ形を繰返しても良い。)

③ 予選ラウンド 5回戦以降 1～4回戦で演武した形を除く指定形及び得意形(同じ形でも良い。)

④ 決勝ラウンド 予選ラウンドで演武した形を除く指定形及び得意形

<一般・マスターズ>

※ 人数により、フラッグ制(トーナメント方式)か、得点制を決める。

○ 各ラウンドで演武できる形は、以下とする。

① 予選ラウンド 1回戦 全空連第一指定形

② 予選ラウンド 2回戦 全空連第二指定形

③ 予選ラウンド 3回戦以降 1～2回戦で演武した形を除く指定形及び得意形
(一度演武した形は使用できない。)

④ 決勝ラウンド 予選ラウンドで演武した形を除く指定形及び得意形

※ 出場者が4名以下の場合は、1回戦を決勝ラウンドとする。

※ 出場者が5名以上8名以下の場合は、1コートで競技を行い、1回戦を2回戦(第二指定形)とし、続けて同コートで上位2名による決勝ラウンドを行う。

※ 出場者が9名以上32名以下の場合は、2コートで競技を行い、予選ラウンドとし、各コート上位2名、合計4名による決勝ラウンドを行う。

※ 出場者が33名以上64名以下の場合は、予選ラウンドは4コートで競技を行い、各コート上位2名、合計8名で決勝ラウンドを行う。

※ 出場者が65名以上の場合は、予選ラウンドは8コートで競技を行い、各コート上位1名、合計8名で決勝ラウンドを行う。

※ コートの状況により、上記が変更になる事がある。

<使用できる形>

※ 第1、2指定形及び得意形は、空手道競技規定(JKF)の「付録17:指定形リスト」並びに「付録18:得意形リスト」から選択しなければならない。

2. 審判員及び、採点の流れ・得点の計算方法について

☆ 審判員

○ 審判員は、兵庫県空手道連盟の県形審判資格保持者以上の者が、5名で行う。

○ 審判員は、主審(第1副審)から、第5副審の5名とする。

※ 但し、有効期限が過ぎた、県資格者で、1年未満の審判員の参加はこれを認める。

☆ 採点の流れ

○ 採点は、審判員の採点板に得点を赤・青同時に表示し、主審の指示でそれを掲げて表示する。

○ 掲げられた得点を、主審の赤の得点から、順次記録係①が読み上げ、それを記録係②③が指定の用紙に記録する。

○ 全選手の演武が終了したら、記録係①は、主審の確認を得た後、予選ラウンドでは、上位ラウンド進出者、決勝ラウンドでは結果の順位を発表する。

☆ 得点の計算方法

- 得点の計算方法は、5名の採点の内、最高・最低の2名の採点を削除し、残りの3名の採点の合計にて順位を確定する。
- 同点の場合は、削除されなかった最低点、削除されなかった最高点、削除された最低点、削除された最高点の順に比較し、その高い点数者を、上位者と決め決定する。
- 上記でも、同点の場合は、再演武にて決定する。

3. 採点の評価基準及び、得点方法について

☆ 採点の評価基準

- 各審判員が技術面を7割、競技面を3割として評価し、合計点の表示で採点する。
 - ※ 技術面の評価ポイントは、下記の7項目とする。
 - * 立ち方、技、流れるような動き、同時性、正確な呼吸法、極め、一致制:流派の形の基本に一貫性があるか。
 - ※ 競技面の評価ポイントは、下記の3項目とする。
 - * 力強さ、スピード、バランス。

☆ 得点方法

- 棄権・反則等の得点は、0. 0(白紙表示)とする。
- 得点の評価での最低点を、5. 0とする。
- 得点の評価での最高点を、10. 0とする。
- 得点は、0. 2毎に増減する。